

～夢と希望をもち 未来にはばたく つばさっ子の育成～



つばさ

さいたま市立つばさ小学校

5月号 No. 2

令和8年4月28日

「すべての子どもたちに等しく学ぶ環境を保障すること」

校長 千明 勉

5月1日は「さいたま市民の日」、市内の市立学校は休業日（学校閉庁日）となっています。毎年、市内の公共施設が無料で開放されるなど、様々なイベントが開催されていますので、この機会にさいたま市民としての自覚を一層高めていただければ幸いです。

さて、今年、さいたま市の教育にとって、大変記念すべき年となりました。アーバンパークライン大和田駅南側に位置する大和田小学校（見沼区）と、いろどり学園小学部・中学部（浦和区）の2校が、新たに開校したからです。特に、いろどり学園小学部・中学部（以下、いろどり学園）は、浦和区にある教育研究所本校に加え、市内6か所のキャンパスの一つとして、本校敷地内にある北教育相談室の一室を活用しており、児童生徒同士の交流も期待されることから、本校と非常に関連の深い学校であると受け止めています。

いろどり学園は、国が推進する、不登校児童生徒に配慮した特別な教育を行う「学びの多様化学校」として、子どもたちが学力やコミュニケーション能力を身に付け、将来的に社会的自立を果たすことを目指して開校しました。その特色として、①いつでもどこでも学びにアクセスできる学習環境（対面・オンラインの両方に対応）、②自分らしく学べる教科設定、③安心して過ごせる居場所づくり（専門家等との連携）を柱に、不登校の子どもたちが自らの興味・関心に応じて主体的に学べる環境を提供するものです。

昨年度に公表された統計調査によれば、全国の不登校児童生徒数は約35万人に上り、全国的な課題の一つとなっています。いろどり学園の開校は、こうした課題の解決に向けて、さいたま市が率先して取り組む姿勢を示すものであると考えています。昨年度参加した指定都市校長研究協議会においても、他都市の校長先生から「さいたま市は進んでいますね」と声を掛けていただき、自分が褒められた訳ではないのに、いい気分でした。

私事ではありますが、20歳代の頃、長期間引きこもり状態にあった不登校のお子さんの家庭訪問を担当した経験や、不登校のお子さんも入学できる、群馬県の山間部にある私立の全寮制中学校・高等学校に4年間勤務した経験があります。現在、本校においても「Solaる一む」を開設し、教室に入りづらさを感じている子どもたちが学べる場を提供しています。不登校であるか否かにかかわらず、すべての子どもたちに等しく学ぶ環境を保障することは、子どもの権利条約等の趣旨を具現化する上でも、きわめて重要です。しかしながら、学校内のマンパワーには限りがあるため、状況によっては、保護者や地域の皆様にご支援をお願いすることがあるかもしれません。その際には、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

<追伸> 4月号の文字が小さくて読みにくかったので、レイアウトを変更することにいたしましたので、ご承知おきください。